

関東支部総会・シンポジウム・意見交換会報告

社日本地すべり学会関東支部

平成20年6月13日、東京大学工学部武田先端知ホールにおいて、関東支部総会とシンポジウムが開催された。

総会では、社日本地すべり学会関東支部平成20年度役員名簿、平成20年事業計画(案)、平成20年事業予算(案)の各議案が満場一致で承認され、総会は無事終了した。

シンポジウムは、「日本と中国における大規模地すべりの実態と対策」をテーマに中国成都理工大学の黄潤秋教授をお招きする予定でしたが、おりしも成都がある四川省で5月12日に大地震があり講演が不可能となり、急遽、災害調査報告に変更した。タイムリーな話題でもあり、多くの来場者を迎え盛大に開催された。以下にその概要をまとめて記す。なお、今回のシンポジウムは社団法人地盤工学会関東支部の後援も頂戴した。関係各位、多くの来場者に御礼を申し上げる。

■シンポジウムテーマ：日本と中国における大規模地すべりの実態と対策

(1) 群馬大学教授 鶴飼恵三、群馬大学助教 蔡飛、国土防災技術(株) 山田正雄

「四川省汶川大地震・地すべり災害調査結果」

(2) 千葉大学名誉教授 古谷尊彦「大規模な地すべり・崩壊の発生場に関する私見」

(1) 四川省汶川大地震・地すべり災害調査結果

2008年5月12日に中国四川省汶川でマグニチュード8.0の巨大地震が発生した。地震断層沿いの都市部と山間部に壊滅的な被害をも

たらし、死者行方不明者は8万人以上に達する。特に土砂崩壊等により生じた巨大な堰塞湖の下流域では100万人規模での避難も行われた。本報告は同25日、26日に講演者らが中国側研究者の協力を得て実施した現地調査結果の報告である。報道されていなかった土砂災害の状況も含めて、貴重な資料や生々しい現地写真による興味深い内容であり、都江堰市内の中学校倒壊、都江堰ダムの被災、道路斜面の落石・崩壊および他彭州市付近での大規模崩壊等を詳細に報告された。このような地震による土砂災害は、火災や家屋倒壊等の構造物被害の陰に隠れていたが、地すべりやがけ崩れ、堰塞湖等の災害が多数発生していることが確認できた。今後の課題としては地すべり(広義)危険箇所把握と対策工計画、堰塞湖の応急対策と監視、住民の移住、建物の耐震性、活断層の把握と建物制限等が挙げられた。

(2) 大規模な地すべり・崩壊の発生場に関する2・3の私見

古谷尊彦千葉大学名誉教授は我が国を代表する地すべり研究者である。今回の講演は大規模地すべり・崩壊研究のエッセンスを凝縮したものであった。大規模地すべり・崩壊の定義と実態、地形・地質の発生場等について、国内外の具体例に基づき詳細かつわかり易い説明をいただいた。その中で従来の破碎帯地すべりについては、地殻ひずみが蓄積された変動帯や上載荷重の開放等も含めた巨大地すべり・崩壊等の発生場としての見直しを提言された。更には山間地域での人との係わりも含めた災害対策のあり方等にも言及された。



写真1 汶川大地震災害調査報告の講演



写真2 古谷先生の講演



写真3 講演後の質疑応答



写真4 盛況な会場風景